

ノヤマ通信

vol.49 (2026.神無月)



森のようちえんヒュッテ

【9月の活動記録：3日山の基地、10日桂川溪谷、17日山の基地、24日観音水・どんぐり王国】

●活動を見つめるコラム

「同じ道を歩いていても、見ている世界は違う」

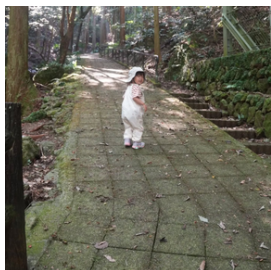
名水百選・観音水に出かけた日のこと。上り坂をすたすと上がっていく子もいれば、水辺でカニを探したり、キノコを見つけたりしながら、のんびり進む子もいました。帰りに大きなシュロの葉っぱを手に入れて、どんぐり王国まで持ち歩いた子もいました。

ドイツの生物学者ユクスキュル（1864～1944）が提唱した概念に「環世界」というものがあります。例えば、嗅覚の鋭い犬、超音波で周囲を探るコウモリ、熱を感じ取って獲物を探すヘビ。同じ場所にも、生き物によって感じ取るものや、それが持つ意味は異なります。それぞれが、自分なりの世界を生きているという考え方です。

これは、ある程度人間にも当てはまると思っています。同じ道を歩いていても、子どもによって気をひかれるもの、目が向くものは違います。僕たちは、一人ひとりが違う世界を見ながら、同じ場所で生きているのかもしれませんが、だから、一人で歩くよりも、二人、二人よりも三人で歩く方が面白いんだと思います。自分では気づかなかったものを、誰かが見つけることもある。それを教えてもらったり、自分が見つけたものを友だちと分かち合ったりできたら、うれしいですね。

（「見てみて、こんなものあったよ！」と子どもに声をかけてもスルーされることは結構ありますが 😊）

「みんな違って、みんないい」というのは、みんなが違うからバラバラに過ごせばいい、ということではないと思うんです。違うからこそ、同じ場所で一緒に過ごしたら楽しいねってことを小さいうちに感じる経験をしておくこと。そういうことが、大事なんじゃないかなあと思っています。（ゆ）



▲9/10森のようちえん@桂川溪谷（野村）



山の基地

【9月の活動記録：5日…開放日、14日…やまびこDAY、1日、25日…日常管理】

●やまびこDAYでは、ブロッコリーなどの冬野菜の苗を植えました。「菌ちゃん農法」という菌類の力を借りて土を豊かにする農法で取り組んでいる畑が、春～夏では比較的育ちが良かったので、そこを使っています。



●基地の畑の中で、今年良く育ったものの1つがバジル。せっかくなので、森のようちえんの活動でバジルを使ったピザづくりをしました。ヒュッテのメンバーのお母さんがつくってしてくれたバジルソースがおいしかった！



✿✿ その他の活動

●西予総合福祉会SDGs研修の対応 (9/15)

昨年に続き、西予総合福祉会から研修の依頼がありました。SDGsを一人一人が自分事として取り組むために何ができるかを考えてもらうワークショップを行いました。



●宇和中学校キャリア教育の対応 (9/16)

ジェンダー等のバイアスにとらわれずに職業について考えてもらう、という授業に講師として呼ばれました。話す内容を考える過程で、おのずと自分自身のキャリアを振り返る機会にもなりました。



私自身、「職業は何ですか？」と聞かれるということも困ります。森のようちえんや自然体験プログラムの提供、生きもの調査、ワークショップの運営、教材や雑誌の編集など、一つ一つの仕事には名前があるものの、それらを全部ひっくるめてやっている自分を表す、しっくりくる職業名がないからです。生徒たちには、「名前のない職業」でも生きていくことはできるので、今ある職業の中から選ぶことだけにとらわれなくてもいい、と伝えました。そして、「自分は何が好きで何が嫌いなのか」「何に幸せを感じ、何に怒りを感じるのか」といった自分の感性を大事にしてほしいと話しました 😊

●四国西予ジオミュージアムで火起こし体験のイベントを開催 (9/20)

西予市内でよくみられる石(チャート)を使って、火起こしをしてみよう、というイベントを四国西予ジオミュージアムで実施しました。

開催中の「海・里・山のフィールドラリー」の関連イベントという形で開催しましたが、市の財政難で今年度から休館日を増やすことになったミュージアムを盛り立てていこうという意図もありました。今後もいろんな人がミュージアムを訪れるきっかけをできる限り作っていきたいと思っています 🔥



🌱 いきもの情報

活動の中で出会った生きものたちを紹介します。

シロマダラ

白と黒のまだら模様のヘビ。夜行性のため、あまり目にする機会がなく、幻のヘビと呼ばれることもあります。(9/14山の基地)



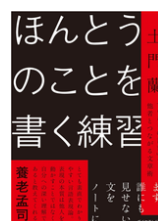
タマゴタケ

白い卵のような形をしている外被膜をやぶってニョキニョキのびる美しいキノコです。(9/24桂川溪谷)



🐣 よもやま話

●土門蘭さんの『ほんとうのことを書く練習』の中で紹介されていた、養老孟司さんへのインタビューがとてもよかったので、紹介させていただきます！



(養老孟司さんへのインタビュー要約)

“「情報化」とは、五感を通して現実に触れ、そこから得たものを言葉や名前などの情報に変えて、人に伝えること。たとえば、自分の目で見たものを文章として表現することも、そのひとつ。だから、自然や一次産業との接点が失われることは、現実を自分の感覚で捉え、それを情報化する力が失われていくことでもある。いま私たちが多く行っているのは、「情報化」ではなく、すでに情報になったものを扱う「情報処理」なのだ。”

この話を受けて、土門さんはこう続けます。

「そして、情報処理を一番得意とするのは、AIです。そして、私たちにしかできないことは『情報化』。まだ情報になっていないものを情報にすること、まだ言葉になっていないものを言葉にすること、まだわからないことをわかるようにすることだ。わからないことは、人間にしか書けない。AIに奪われない領域があるとすると、まさにここだろう。」

この文章を読んで、森のようちえんでは、自然の中での体験を通して情報化することをやってるんだなあと思いました。また、わからないことを参加者のみなさんとあーだこーだとお話する時間も豊かな時間で、感謝です 🙏(ち)



<発行> 一般社団法人

ノヤマカンパニー



愛媛県西予市宇和町稲生237-1

✉ noyama.company@gmail.com